



ふれあい



新春の書(武内健一 総括副院長)

【基本理念】
高度急性期医療を推進する県民に信頼される親切であたたかい病院

- 目次 -

2014年頭にあたって	院長・望月 泉……………2
地産地消給食等メニューコンテスト受賞～地産地消の取り組み～	栄養管理室・佐藤真希子……………3
患者呼称からみた医療者と患者の関係	医療の質向上委員会委員長・川村 実……………4
地域医療センターのご紹介	業務企画室・荒田 綾子……………5
病院ボランティアを思う	ボランティア代表・竹花 昭子……………6
がん看護専門看護師 (OCNS) として	がん看護専門看護師・伊藤 奈央……………7
中央病院糖尿病療養指導チームの活動について	健康管理科長・菅原 隆……………7
病院運営協議会が開催されました	総務課長・高橋 広……………8
編集後記……………	……………8

- 【行動指針】**
- 1 良質な医療の提供
 - 2 優れた医療人の育成
 - 3 地域医療機関への診療支援
 - 4 救急医療の充実
 - 5 災害医療の体制整備
 - 6 臨床研修体制の充実
 - 7 健全で効率的な病院経営

※ 広報誌「ふれあい」は1,700部を作成し、県民、連携医療機関、行政機関等に岩手県立中央病院の情報をお届けしています。

2014 年頭にあって

院長 望月 泉

2014 年の年頭にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。昨年の仕事はじめ式でもお話ししましたが、「change! (変革)」と「Yes, We Can! (我々是可以)」というキーワードを常に脳裏に浮かべながら院長業務にあたってきました。昨年を表す漢字は輪ですが、全職員の輪によって、岩手県立病院のセンター病院としてさらに質が高くかつ安心、安全な医療の提供が可能となり、いかなる困難があろうとも職員が一体となってチーム医療を推進し、「変革」、「我々是可以」をキーワードに医療の質の向上を追求して行ければと願っています。

昨年6月には第15回日本医療マネジメント学会を盛岡で開催し、3,500名近くに参加をいただき成功裏に終了しました。医療に携わる私共の不断の努力とそれぞれの地域との協働による信頼こそが、患者中心の医療を築いていくものであり、本学術総会の開催は医療の質の向上や地域の発展にも寄与したのではと思います。12月には病院機能評価を受審しましたが、講評では多大なるお褒めのことばをいただきました。築27年経過したとは思えないほどの掃除が行き届いており、来訪されたサーベイヤの方々にはびっくりされました。これもひとえに皆様のおかげです。引き続きよろしく申し上げます。

当院の基本理念は、「高度急性期医療を推進する県民に信頼される親切であたたかい病院」です。この基本理念を実現するためには、われわれ医療人の「心」が重要となります。高度急性期医療の中でどうしても後回しにされそうになる「心」を医療の提供者として常に念頭において行動しなければなりません。言い換えれば、患者さん、人間に対する愛情です。もしそうでなければどんなに質の高い医療を提供しても理解されませんし、われわれの基本理念そのものが実現できなくなります。

今年やりたいこと、やらなければいけないことは、院内ハード面、ソフト面の整備です。築27年を経過して、外来をはじめあらゆるスペースが手狭になりました。皆さんで知恵を出し合って、既得権を主張するのではなく、より良い病院となれるよう考えていきたいとします。また、患者さんに快適な療養環境を提供できるよう、トイレなどのアメニティ整備が急がれます。同時に職員が働きやすい環境整備も必須で、この病院に勤務してよかった、楽しめたと思える病院にしていかなければと決意を新たにしております。モンスターペイシメント対策も大切で、現場での対応で職員が疲弊しないように組織作りをしていくつもりです。



4年後には、岩手医科大学が矢巾に移転します。岩手医科大学は年間22,000人の救急患者さんを診察してくれていますが、入院率は5%と大多数の患者さんは軽症例です。街のまん中で、全診療科がそろっており、患者さんは自分が軽症か入院必要かわかりませんので、大学病院を受診するわけです。この人たちをきちんと診る仕組みを作らないと、盛岡医療圏の二次救急も破綻してしまいます。広く意見を求め、より良い医療体制を構築できるよう努力していきたいと思えます。

以上、年頭のごあいさつとさせていただきます。



地産地消給食等メニューコンテスト受賞 ～地産地消の取り組み～ 栄養管理室・佐藤 真希子

この度は、農林水産省主催の第6回地産地消給食等メニューコンテストにおいて、東北農政局長賞をいただきました。

地産地消の取り組みは、県立病院全体でも日頃から献立や特別メニューにも取り入れ提供しています。

当院でも、月に1回以上「いわて食財の日」として実施しています。例えば、県南で栽培している菜ばな「春のかがやき」や盛岡の津志田里芋、県北でとれたさくらんぼや滝沢スイカ、沿岸でとれた秋刀魚、県内のブランド肉「彩菜どり」などを提供し、岩手で採れる食材を知って頂けるように工夫しています。(右の写真は一例)

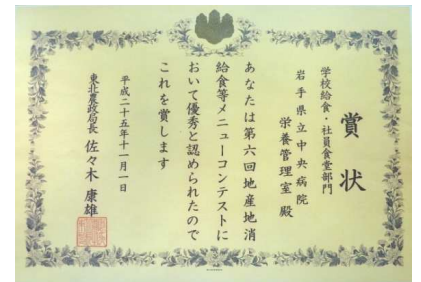


さんさ祭りのため「じゃじゃ麺」と地産地消の取り組みで「滝沢スイカ」

日々の取り組みを踏まえ、今回初めてコンテストに応募し賞をいただきました。受賞献立は、恵み豊かな岩手の食材を使用し、「岩手の恵みまるごと御膳」を考えました。

メニュー内容 (写真参照)

- ・きび(雑穀)入り鮭の蒸し寿司
- ・まつもの清まし汁
- ・岩手牛の二子里芋巻き
山葡萄ソースかけ ほうれん草とトマト添え
- ・りんごのコンポート 岩泉ヨーグルトかけ



岩手自慢の新鮮な肉や魚介、野菜をふんだんに組み合わせ献立を作成しました。

【きび入り鮭の蒸し寿司】

関西発祥の蒸し寿司を岩手(県北)の雑穀や鮭などの食材でアレンジしました。大地の恵みと魚介の旨みをギュッとまるごと閉じ込め、温かいまま食べられる炊き込み寿司です。雑穀のプチプチした食感とご飯の酸味がアクセントになり、さっぱり頂けます。

【岩手牛の二子里芋巻き】

粘りがあって柔らかい北上産の二子里芋をマッシュし、赤身の多い岩手牛で巻いてソテーにしました。

ソースには、鉄分やポリフェノールを多く含む岩泉産の山葡萄を使用し、蜂蜜を加えて甘みと酸味のあるソースをかけました。

【りんごのコンポート】

岩手県はりんごの生産も消費量も多く、生で食べる以外にも様々な活用をされていますが、食べやすいように柔らかく煮て、特に酸味の少なく、食感がなめらかな岩泉ヨーグルトと組み合わせました。



「岩手の恵みまるごと御膳」

～「地産地消」という言葉をご存じですか?～

「地元(県内)でとれた食材を地元(県内)で消費する」という意味があります。岩手でも地産地消の取り組みを行っています。地産地消県民運動の推進に当り、毎月1回第4土曜日を中心とする3日間を「いわて食財の日」として設定しスーパーなどの民間企業と岩手県が一緒に取り組んでいるのはご存知ですか?

←こちらのロゴを見たことありませんか?いわての食材はみんなの財産という意味で「いわて食財の日」となっています。当院で、「食財の日」のお知らせとして、こちらのロゴをカードに利用しています。今後も、食の宝庫といわれる岩手の食材を、日々の献立や特別メニューなどに積極的に取り入れ、患者さんに届けたいと思います。また、地元で採れる食材や郷土料理など、皆さんからも情報提供頂きたいと思います。宜しくお願ひします。



医師と患者との関係が非常に変化してきた。一昔前までは医師の診察は血圧測定の値すら患者には言わず、“この薬を飲んでください。”“わかりました。”というように医師と患者のコミュニケーションは単純であった。しかしながら今では“血圧値は170/90であり、このまま過すと脳卒中、心筋梗塞や腎不全になる危険性があります。生活習慣の改善でも血圧は低下しますが、患者さんの自己努力が必要であり、降圧効果が得られるまで数か月を要します。しばらく内服治療も併用したいと思いますが、どうしますか？”と問うと“薬に頼りたくないの、食事療法や運動での治療を受けたい。”と返事が返ってくる。患者の自己決定の権利が尊重されて、医師からの十分な説明とそれに対する患者からの同意が必要な時代となり、コミュニケーションも複雑となっている。

待合室での患者の呼称(呼び出し)も時代とともに大きく変化している。一昔前までは待合室で『〇△さん』と呼称しても問題なかったが、“プライバシーへの配慮がない。”との苦情が

きっかけで2004年12月から当院では呼称を『名前』ではなく、『番号』で呼ぶこととした。すると今度は“番号で呼ばれると囚人のような気分となって不快である。”との多くの苦情を受けた。そこで両意見を尊重して基本的には『番号』にて呼称するが、患者からの希望があれば『名前』で呼称することとした。名前での呼び出しを希望する場合はその敬称としては名前の語尾を『〇△さん』としていたが、2001

年に厚生労働省は“医療職員が患者を呼称する場合、『〇△様』とする”という通達を出した結果、全国の病院で患者の語尾を『様』と呼ぶようになった。当院では2011年11月に『様』と呼称することに統一した。しかしながら、医療者からは“病院はホテルやデパートとは異なり、客の好みのものを提供するのではなく、時には治療のために食事制限などの苦言も呈さなければならぬので『様』付けは馴染まない。”との意見が出た。患者からも“『様』で呼ばれると、丁寧すぎて逆に軽んじられた感じがする。”との意見が出てきた。



2013年10月8日に病院長名で当院では『さん』と統一して呼称することにして現在に至っている。病院正面玄関にある『ふれあいポスト掲示板』は患者からの意見に対する病院から返事を示した掲示板であり、この中に病院の呼称に関する統一見解を掲示しているのは是非一読願いたい。

以上のように呼称を通じて医療者と患者の関係を振り返ってみた。患者の呼びかけは接遇の基本であり、この『呼称』による一声のインパクトは確かに大きい。ゴールドスタンダードな呼称はなく、呼ばれる方の各個人での思いも異なり、今後も呼び方の議論は続くと思われる。しかしながら、この問題の本質は言葉づかいの表現法としての『呼称』ではない。それは当院の基本理念である“県民に信頼される親切であたたかい医療者”になろうとする中央病院職員の『気持ち』である。この重要性は時代に伴って変化するものではなく、普遍であると思う。



地域医療研修センターのご紹介

業務企画室 荒田 綾子

県立中央病院では、昭和 62 年の移転新築に際し地域医療部を組織し、部内に医療従事者への生涯セミナーや各種の研究会・講習会の開催等を目的とする「地域医療研修センター」を設置いたしました。

現在もセンターでは、地域の医療従事者の皆様にご参加頂けるような各種研修会や症例検討会の開催、図書室の開放などを行っています。最新の開催情報は当院のホームページ等でお知らせするほか、県医師会にご協力頂き岩手県医師会報にも掲載頂いております。どれも原則として参加費は無料です。主な内容を以下にご紹介いたしますので職場研修や個人の資質向上、学会準備等のため、どうぞお気軽にご参加・ご利用ください。

医療講演会 1

大阪地域医療連携合同協議会（通称「大阪連携たこやきの会」）世話人としてもご活躍され、地域医療連携、クリニカルパスなどに造詣の深い重田由美先生をお招きいたします。

- 1 演題 『みんなで考えよう地域連携』
- 2 講師 重田由美氏（北野病院 医療連携コーディネーター）
- 3 日時 平成 26 年 2 月 7 日（金）18：00～20：00
- 4 場所 県立中央病院 4 階大ホール

※TV会議システムを使用し、他の県立病院へ講演を配信いたしますのでお近くの会場で視聴可能です。（詳細は当院のホームページをご覧ください。）

- 5 申込み方法 当院ホームページより申込書をダウンロードして頂き、視聴をご希望される病院へ Fax にてお申込み願います。

医療講演会 2

より良いコミュニケーションの構築による、患者と医療者の「協働」の実現を目標に活動されているCOML代表の山口育子先生をお招きいたします。

- 1 演題 『患者と医療者が情報を共有するために』
- 2 講師 山口育子氏（NPO法人ささえあい医療人権センターCOML（コムル）理事長）
- 3 日時 平成 26 年 2 月 18 日（火）18：00～20：00
- 4 場所・申込み方法（※上記「医療講演会 1」と同じ）



遠隔研修実践講座（19：00～20：40）

当院にて看護に関する講座DVDを放映いたします。

本講座のビデオ・DVDの貸し出しも行っております。貸出料金は無料、送料も当方で負担いたします。ご希望の場合は、当院ホームページより貸出申込書をダウンロードし、Fax（図書室：019-605-8721）でお申し込みください。

- 1 会場 県立中央病院 3階視聴覚室
- 2 申込み方法 当院ホームページより申込書をダウンロードし Fax（019-653-4830）でお申し込みください。

TVカンファレンス

国立がんセンター（6施設）と地方中核がんセンター（16施設）間を情報ネットワークで結び、最先端の医療情報や技術に関する多地点TV会議を実施します。

- 1 会場 県立中央病院 3階視聴覚室
- 2 申込み方法 直接会場へお越しください。

プライマリー・ケアセミナー（18：00～19：00）

中央病院の後期研修医と各科の指導医が講師となり、各回のテーマについて基礎的な内容の講義を行っています。

- 1 会場 県立中央病院 3階視聴覚室
- 2 申込み方法 直接会場へお越しください。

図書室（休日を除く月曜日～金曜日 9：00～17：00）

- 医療従事者の方は、どなたでも図書室内で閲覧ができます。コピー機を備えておりますので文献の複写もご利用頂けます。
- 原則として盛岡保健医療圏の医療従事者の方には貸し出しも行ってまいります。
- 所蔵雑誌（国内雑誌 180 誌、外国雑誌 107 誌）リストを当院ホームページの「医療従事者向け情報」に掲載しております。

病院ボランティアを思う

ボランティアひまわり代表 竹花 昭子

病院は多くの専門職の方々が仕事をしています。建物も設備もその目的に応じて機能的につくられ、時に一般の人には冷たく感じられます。このような場所に身体的苦痛と不安でいっぱいの方々とその家族の方が、一歩院内に入った時にその感情はいつそう助長されることでしょう。

「ボランティアひまわり」の会則第2条に次のようにうたわれています。

『会員総合の自主活動により病院の基本方針に基づき、病院内での活動を行いよりよい医療環境の向上に努め住み良い地域社会づくりに寄与することを目的とする』私共はこの条項に従いながら患者さんとその家族にどのような支援ができるのでしょうか。そして、次のような懸念もありました。①個人情報を守れるか②医療には全く素人の私どもが、医療行為に低触しないか(じゃまにならないか)。幸いなことに病院側には、各セクションの職員から構成されたボランティア委員会があり私共を常にご指導してくださいます。平成12年10月に発足し試行錯誤の活動でした。現在、つぎの活動をしております。



- 1.環境(院内の観葉植物の手入れ、壁に掲示されている写真、絵などの点検)、図書(各フロア外来に設置されている図書の運営と管理)
- 2.外来案内(外来にいらした患者さんへの様々な援助)
- 3.おはなしのへや(小児外来で診察待ちのお子さんのお相手)
- 4.小児病棟(付き添いのお母さんに対して少し自由な時間・・・入浴、買い物の時に見守りをする)
- 5.病棟支援(安静の必要な患者さんに足浴などをしながらお話し相手になる)
- 6.医学図書室(医療、看護、栄養など患者さんに必要な情報をもつていただくための図書室。専門書、雑誌がありパソコンで検索も出来る)

やはり、どんな事をするのにも研修は必要です。看護職やボラン

ティアの先進病院から講師を招き講義をもうけます。ボランティアの一定の人数の確保(募集)経済的なことなどの課題はかかえていますが、仲間は果敢に解決します。バザーは活動費を生み出し、楽しい仲間づくりの場でもあります。ボランティア室はいつもにぎやかで笑いが絶えません。

病院職員とボランティアは、よく車の両輪に例えられますが、私はボランティアは補助輪であってほしいと思います。幼い児が自転車の練習をする時に補助輪で安心感を持ち、やがて乗れるようになればそれは不要になります。そう！私たちは必要とされている方々にお手伝いをします。今日も、補助輪としてオレンジのエプロンをつけて活動する仲間を誇りに思っています。

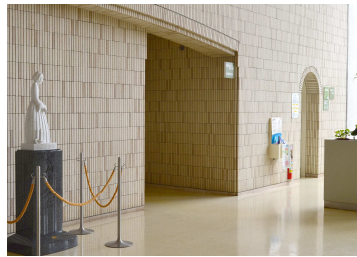


がん看護専門看護師 (OCNS) として

がん看護専門看護師 伊藤 奈央

専門看護師とは日本看護協会が認定する認定資格の一つで、大学院を修了し、ある特定の専門分野において実践能力を有することが認められた者をいい、【実践】【相談】【調整】【倫理調整】【教育】【研究】の6つの役割を担っています。私は2010年に認定を受け、現在岩手県では4名のがん看護専門看護師が活動しています。がん看護専門看護師の活動の特徴は、患者の現象を捉えて全体をアセスメントし直接的ケアに関わる場合と、看護師をはじめとする医療チームメンバーの力を引き出しながら実践を支える間接的ケアを行う点です。がん医療は日々進歩しておりますが、治療や療養方法選択の意思決定、治療に伴う副作用や苦痛症状のマネジメントなどさまざまな課題があり、診断から最期の時まで患者さんがその人らしく生きるためには看護の力が大切です。がん看護専門看護師として、さまざまな課題に直面している患者さん、ご家族、看護師をはじめとする医療チームメンバーをサポートしていきたいと考えています。また、当院は地域がん診療連携拠点病院ですので、地域のがん医療・看護の向上を目指した教育活動や研究にも努めております。

一人でも多くのがん患者さんの苦痛が緩和され、ご家族と共に安心して療養いただけるように活動していきたいと思っておりますので、いつでも医療相談室（または退院調整6480）までご相談下さい。よろしくお願ひ致します。



1階「医療相談室」入口



中央病院糖尿病療養指導チームの活動について

健康管理科長 菅原 隆

当院では、増加の一途をたどる糖尿病患者さんへの療養指導について、各職種それぞれからのアプローチで行うことにより高度かつ多様な指導を提供することを目的として、糖尿病専門医を始め、薬剤師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師など多職種の糖尿病療養指導士により構成する中央病院糖尿病療養指導チームを設置しています。また、糖尿病連携パスの作成・運用を通し、地域の先生方と連携を深め、ひとつのチームとして患者さんに関わることを目的として、地域の先生方とともに岩手県立中央病院糖尿病ネットワークを構成しています。

活動の一環として、糖尿病患者さんやそのご家族を対象とした糖尿病教室、地域の先生方や医療従事者の皆さんを対象とした勉強会を開催していますので、ご興味のある方はぜひご参加ください。

平成25年度 第4回糖尿病教室

開催日：平成26年2月13日（木曜日）
 時間：午後3時から午後4時まで
 場所：岩手県立中央病院
 3階 視聴覚室
 ▲ 参加費・事前申込不要

患者さん
ご家族
対象

内容

低血糖について

講師：当院 総合診療科長 川村 実

第3回 岩手県立中央病院
糖尿病ネットワーク勉強会

開催日：平成26年2月20日（木曜日）
 時間：午後7時から午後8時30分まで
 場所：岩手県立中央病院
 4階 大ホール
 ▲ 参加費・事前申込不要
 ※岩手県医師会生涯教育講座認定
 1.5単位取得可能

医療
従事者
対象

内容

演題1 『インスリン治療の基礎知識』
 講師：当院 健康管理科長 菅原 隆
 演題2 『インスリン自己注射指導の実際』
 講師：当院 総合診療科外
 日本糖尿病療養指導士・看護師 大下 咲子
 (座長：岩手県立中央病院 健康管理科長 菅原 隆)

病院運営協議会が開催されました

総務課長 高橋 広

11月17日、盛岡地域（盛岡市、岩手郡、紫波郡）の県立病院運営協議会が当院4階大ホールで開催されました。

この協議会自体は従来、年1回、定期的に行われてきましたが、県立病院事業全体の経営計画の実施等にあたり、県に対する地域、住民の皆様からのご意見を集約する場が地域別に設けられたことや、東日本大震災津波やその復興対応等を優先する等の判断などもあり、平成21年2月開催の協議会を最後に、開催が見送られてきておりましたが、昨年度から再開となったものです。

当日は、運営協議会委員24名中19名（代理出席2名）、医療局本庁から佐々木信医療局長をはじめ、関係課・室の代表者、主催病院として望月泉中央病院長のほか、当院、地域診療センターの各部門の幹部職員が出席しました。

定刻となり、運営協議会が開会され、委員紹介、職員紹介の後、谷藤会長（盛岡市長）、望月病院長、佐々木信医療局長から挨拶があり、谷藤会長が議長席に登壇し、議事に入りました。

議題1「盛岡地域県立病院群（3施設）の運営状況について」は、はじめに望月病院長から、最近の医療をめぐる内外の情勢、中央病院の収支・運営状況、盛岡地域の救急医療や医師確保の状況などについて委員に基調説明を行い、次に、村田中央病院事務局長から、資料の説明、その後、2つの診療センター長からそれぞれ説明がありました。

出席委員は説明に熱心に聞き入っていました。次に、これらの説明を踏まえ委員からの熱心な質疑応答、意見交換が行われました。

次に、議題2「（仮称）岩手県立病院等の経営計画《2014-2018》（案）について」熊谷経営管理課総括課長から説明があり、説明後、各委員からの熱心な質疑応答、意見交換が行われました。



編集後記



明けましておめでとうございます。地を這う蛇から空を翔る馬へという上昇、発展を連想させる年となりましたがいかがお過ごしでしょうか。最近極端気象現象が頻繁だと思いませんか？大型台風が増加したり局地豪雨で土砂崩れがあったり、地球温暖化の影響でしょうか？逆に地球は寒冷化に進んでいるという説があります。太陽黒点の数は太陽の磁場活動が弱くなると減少、強くなると増加し、過去の観測から11年周期で増減するという事実がある様です。一方地球上の雲は宇宙の彼方から飛んでくる強力な宇宙線が大気中の飽和水蒸気に刺激を与え、水滴が一気に液状化し塵を核として水の微粒子、雲となります。太陽黒点が減少するとそれまで跳ね返されていた高エネルギー宇宙線がより多く地球上に降り注ぎ、結果、雲が多く発生する。雲は太陽光線を反射するため地表は寒冷化するというのです。2001年から2002年に太陽黒点が極大期を迎えており、その周期だと2012年から13年にかけて太陽活動は極大期を迎え黒点が大量に増加するはずであったが観測史上異常に黒点増加が少ない、ということは今後大量の雲が発生する時期が数十年にわたってやってくるのではないかと予想するのです。地球45億年のうちほんの一瞬存在している私たちにとっては計り知れない地球の生命を感じますよね。本年もよろしくお祈り申し上げます。（委員長：島岡 理）



★おしらせ★


次回の健康講座

「ここまでできる!!内視鏡外科手術」

日時：2月2日(日)14時から

場所：プラザおでつて

入場無料・事前申込み不要

 **岩手県立中央病院**

〒020-0066 岩手県盛岡市上田1-4-1

電話 019-653-1151 Fax 019-653-2528

<http://www5.pref.iwate.jp/~chuohp/>



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

ふれあいNo264 平成26年1月 発行

中央病院広報委員会

◆委員長 島岡 理

村上 晶彦 下長根 敏昭

菊池 裕子 福田 耕二

内野 邦江 増田 晃

田沼 睦 佐藤 真希子

大久保 忠吉 北田 真紀

荒田 綾子 吉田 奈穂子

「ふれあい」はホームページでもご覧いただけます。